

東稜高校構内の鳥類

熊本県立東稜高等学校 理数コース生物班

【1. はじめに】

昨年、東稜高校の構内の生物を調査し、秋頃から鳥類の観察を始めた。双眼鏡の使い、校舎周辺をまわると、初めて見る鳥が多く、知っているつもりでもあまり観察することがないことに気付いた。そこで鳥類に興味を持ち、構内ではどのような鳥がいるのか調査することにした。何度か観察しているうちに、東稜高校に通う生徒は学校にいる鳥をどれくらい認識しているのか、そして見たことがあるのか気になり、アンケート調査を行うことにした。また、東稜高校では落鳥が多く、発見されると生物教室に連絡があるとのことだったので、落鳥の記録をもらい、東稜高校で見られる鳥についてまとめることにした。

【2. 目的】

- (1) 構内にどのような鳥類がいるのか調査する。
- (2) 東稜高校に通う生徒がどれだけ構内で見られる鳥類を知っているか調べる。

【3. 方法】

調査期間：2020年2月～10月（3月～5月の休校期間は除く）
調査場所：東稜高校構内
調査対象：構内の鳥類

(1) 鳥類の観察

構内の鳥類をラインセンサス法で調査し、集計・記録した。校舎周辺の1周約650mを歩き、観察には双眼鏡を使用した。

(2) アンケート調査

東稜高校の生徒に構内でよく観察された鳥類6種類について、知っているかどうかのアンケート調査を行った。

(3) 落鳥の記録と集計

落鳥の記録を集計を行った。落鳥が回収された時間によっては一緒に観察や同定、計測を行った。



図1 ラインセンサスルート

【4. 結果】

(1) 東稜高校の構内で観察された鳥類

2020年2月～10月にかけて合計308羽、計16種の鳥類を観察することができた（表1）。なお、3月～5月は新型コロナウイルス感染防止対策のためにラインセンサス法を行うことができなかった。

表1 確認された野鳥

確認した野鳥	2月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
科名	種名	落鳥	落鳥	ライン	落鳥	ライン	落鳥	ライン	落鳥
1	ハト	ドバト	1			8.3	2		4
2	キジバト			1	1.3	1	5	1	0.3
3	カワセミ	アカショウビン							1
4	キンクワ	ツグミ							1
5	モズ	モズ				1			0.8
6	カラス	カササギ	1	1					0.3
7		ハシボソガラス	1			1.3	1	0.7	1
8		ハシボソガラス						0.3	0.1
9	シジュウカラ	シジュウカラ							0.1
10	ヒヨドリ	ヒヨドリ	5.5		1.3	1		0.3	10.5
11	クゲイ	ヤブカメ							1
12	メジロ	メジロ	3.5						1
13	レンジャク	ヒレンジャク		1					0.5
14	ムクドリ	ムクドリ				2.8			1
15	クロツグミ	クロツグミ					1	1	4
16	大型ツグミ類	シロハラ	1	0.5					2
17	小型ツグミ類	ツグミ	1	1					0.3
18	ヒタキ	ヒタキ							0.1
19	セキレイ	セキレイ			1				0.8
20	スズメ	スズメ			1	12	1	5	3
21	セキレイ	ハクセキレイ							2.3
22	アトリ	アトリ							5.3
23	落鳥のみ	カワセミ	7.5						0.3
24	落鳥含む	落鳥含む	3	40	1	3	2	107	3
		落鳥	0	8	1	3	2	6	3
		落鳥	0	8	1	3	2	6	3
		落鳥	0	8	1	3	2	6	3

※落鳥は2020年2月～10月の合計「ライン」ラインセンサス法で見た鳥の月ごとの平均個体数。

集計結果から、スズメ、ドバト、キジバト、ムクドリは観察したどの月でもよく観察された。ハクセキレイ、シジュウカラ、ハシボソガラスはこの調査期間中にそれぞれ1羽ずつしか観察することができなかった。モズ、カササギもあまり観察することはできなかった。

また、カワラヒワは6月～9月には観察することができず、ジョウビタキも10月にしか観察することができなかった。

季節が変わるにつれて野鳥が1番多く集まっている樹木が違っていた。2月～6月は、体育館前の樹木やテニスコートによく集まっていた。6月～9月は場所は違うものの、どちらも葉が多く樹木が集まっている場所であった。10月には、プール側の調整池の前後の樹木によく群れて集まっていた。調整池に水が溜まっているときは水浴びをしている姿が確認することができた。

しかし、ラインセンサス法で調査を行う時間帯が昼近く、調査以外の登校の時間帯などに多く観察されることがあった。



図2 野鳥がよくいた樹木の場所

【5. 考察・まとめ】

(1) 2020年2月から10月までで22種（落鳥含む）を観察することができた。東稜高校では学校中に沢山の樹木が植えられている。そして野鳥の食べる木や昆虫が多くみかけることができる。そのため餌を食べてくる野鳥や休憩をしようとする野鳥が多いのだと思われる。また、2月から6月に多く野鳥が集まっていた体育館前の樹木の場所からいなくなったのは、構内のテニスコートの工事が始まったためとも考えられる。調整池の前後の樹木はドバトやムクドリの大群がよく観察されたので場所を移動しているとも考えられる。

(2) 生徒たちにアンケートをとった結果、よく見られる野鳥は見たことがある人が多かった。あまりなじみのない野鳥は名前を知っている人も少なかったが、見たことがない人が多かった。このことより、鳥のことを注意し観察している人は少ないということが分かった。外を見ている、自分たちの知っている鳥ばかりが目に入るのかもしれない。カワラヒワを見たことがない人回答した人が多いのは、カワラヒワについて知らないということに加え、カワラヒワがハシボソガラスのように目立たない大きさで、葉に隠れていることが多いからだと考えられる。

(3) 4月から10月にかけて24羽の落鳥を確認された。東稜高校の構内は特殊な構造で廊下に壁がないためよくぶつかるのかもしれない。また、そのために落鳥を発見しやすく、多いとも考えられる。

今回東稜高校の構内をラインセンサス法で観察を行い、たくさんの種の野鳥がいることが分かった。季節で見つけられる野鳥もいれば常に観察することができるとも思える。月によって集まる樹木が違っていたりもした。また、落鳥を記録することにより、ラインセンサス法では見つけることができなかった種類もあった。見逃してしまっている可能性があるのでもう一度注意深く観察を行い、季節によって集まる樹木が違ってくるかなどを調べていきたい。さらに記録を増やし、どのような野鳥が構内にいるのかを調査していこうと思う。

(2) アンケート結果

東稜高校に通う生徒156名に6種の鳥（スズメ・キジバト・ヒヨドリ・ハシボソガラス・カワラヒワ・ムクドリ）（図3）についてアンケートを行った。1回目は文化祭で、生物教室の展示を見学に来た人に協力をお願いした。2回目は1年生4クラスで調査を行った。



図3 アンケートの6種の鳥
上段左から スズメ、キジバト、ハシボソガラス
下段左から ヒヨドリ、カワラヒワ、ムクドリ

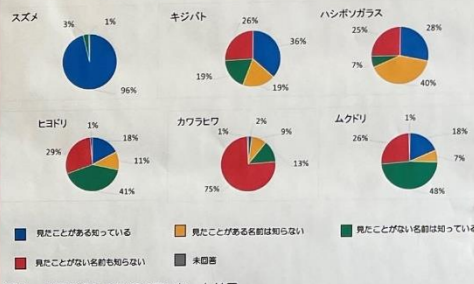


図4 6種の鳥についてのアンケート結果

スズメは見たことがある人が96%とほとんど、キジバト、ハシボソガラスは見たことがある人が多く、ヒヨドリ、ムクドリは、名前を知っているが見たことがない人が40%程いた。カワラヒワは知らない人が75%と多かった。

ハシボソガラスやキジバトはカラスやハトと思っている人が多く、「見たことがあるが名前は知らない」が多かった。

(3) 落鳥

構内において、調査以外でも鳥を目撃することでも多いため、ラインセンサス法だけでは情報が不足する。そのため、落鳥の記録も加えた。特に落鳥の調査は2015年本校の生物部が研究を行っているため、現在も落鳥が発見されると生物部顧問の先生に連絡が入ることになった。2020年の落鳥の記録を提供していただき、ラインセンサス法と一緒に表にまとめた（表1）。

2月～10月にかけて25羽、15種の落鳥を確認することができた。キジバトが2羽、スズメ3羽、ヒヨドリ1羽など構内でよく観察される鳥もガラスに衝突していた。またアカショウビン、クロツグミなどのラインセンサス法では見つけられなかった野鳥も見つかった。キビタキが6羽と落鳥としては1番多く発見されたが、ラインセンサス法では1度も観察されていない。

また、生物部顧問の先生から話を聞くと、連絡が入るとき、発見した人のほとんどが、キジバトは「ハト」、スズメは「スズメ」、ハシボソガラスは「カラス」それ以外の鳥は「鳥」表現されるようだ。実際、「鳥が廊下に落ちています」と言われて同行したら1度目はアカショウビン、2度目はシロハラだった（図5）。普段見ない鳥も時々きえるようだ。

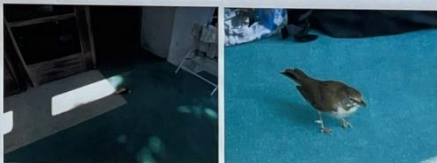


図5 落鳥（アカショウビン）

図6 ガラス衝突シロハラ 午後放鳥

【6. 参考文献・文献】

横口広志・柴田佳秀：町・野山・水辺で見かける野鳥図鑑、日本文芸社、2019年
高野和之：フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂新版、日本野鳥の会、2015年
東稜高校生物部：100羽の落鳥データから見えてくること、熊本生物、2016年